

- ・学会主催シンポジウムの海外からの出席者への補助
標記について、東南アジア諸国等からの出席者を対象に申請があれば積極的に検討したい旨、担当理事から報告があった。

電子情報…1998年10月の日本気象学会ホームページのアクセス状況(68,750件)

- ・研究者向け気象データ提供ネットワークの検討(第3回常任理事会議事録参照)
前回の常任理事会の依頼を受けて、国内の研究者等への気象情報提供体制の整備に関連して、気象庁などが保有する気象衛星資料、数値予報資料などの内、学会関係者がどのような資料をどのように利用する必要があるか検討中である旨、担当理事から紹介があった。

3. 会員加入状況

新入会員17名を承認。会員数4,753名(内、通常会員4,220名)。

4. 第30期評議員の選考(第3回常任理事会議事録参照)

評議員の候補として、各界の関係者名が挙げられ、各理事が分担して本人の内諾が得られるか打診し、次回に候補者を内定できるよう手配することになった。

5. 1999年度事業計画(案)

事業計画の各項目について検討した。各研究連絡会・月例回等の担当窓口が不明確になっているので、窓口を確認し事業計画の検討を促進することになった。

会計担当理事から予算関連事項については、予算案についても早めに検討して欲しい旨、依頼があった。

6. その他

(1)IUGG 開催への取り組み

計画担当理事より、学術会議において、日本からの招請状の文案が検討され、ほぼできあがった旨、紹介された。

(2)第30期第5回常任理事会の開催

平成10年12月14日(月)13時30分から、気象庁内日本気象学会事務局で開催。

奨励賞の副賞メダル図案の公募

1999年度から、これまでの「奨励金」に代わって「奨励賞」が設けられます(これに関する細則改正については「天気」45巻7月号p.589をご覧ください)。これに伴い、副賞としてメダルを贈呈することが決まり、その図案を広く公募することになりました。メダルは銀ブロンズ仕上げで、他の4賞(学会賞・藤原賞・山本正野論文賞・堀内賞)と同程度の大きさのものを予定しています。学会賞のメダルには太陽と雲の図案、藤原賞のメダルにはvortexの図案、また山本正野論文賞のメダルには富士山の図案がそれぞれ彫り込まれています。奨励賞のメダルは、「研究を本務としない環境

下の研究活動や、教育現場での実践に対する顕彰」という賞の趣旨にふさわしいものが望まれます。採用作品には薄謝を贈呈致します。

応募に際しては、直径100mmの円形の中に白黒のコントラストつきの図案を描き、必要な添え書きとともに、下記まで郵送して下さい。

あて先：〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-4

気象庁内 日本気象学会事務局

応募期限：1999年3月31日

なお、1999年度奨励賞の受賞候補者の推薦を募集中です。詳しくは12月号(p.920)をご覧ください。